

# まいどさんが待っている

(ハートネットTV 初回放送 2017年6月21日(水) 午後8時00分)

青森県西南部、白神山地のふもとに位置する弘前市旧相馬村。国が指定する特別豪雪地帯です。

この地域で35年間、移動販売を続けている人がいます。

笹久一（ささ・きゅういち）さん、53歳です。



旧相馬村のなかでも山あいの沢田集落は、冬は2mの雪が積もり10世帯のうち半数以上を一人暮らしの高齢者が占める、いわゆる”限界集落”。電車もバスもスーパーもないため生鮮食品や調味料、日用品まで揃える笹さんの移動販売車が生活を支えています。

常連客が求めるものを知り尽くす笹さんは体調や生活を気遣うなど家族のようにきずなを深め、感謝を込めて常連客を「まいどさん」と呼びます。

しかし転居や死去等でお年寄りは急減、ここ数年で一気に変化が訪れ始めています。それでも最後の一人になるまで移動販売を続けると意気込む笹さん。なぜなら、自分の仕事・生活は一人ひとりの「まいどさん」によって支えられているため、その人たちの手足として寄り添い、働くことが自らの使命だと考えているからです。

そんな笹さんが沢田集落の「まいどさん」からある頼み事をされ…。笹さんと消えゆく集落のお年寄りたちとの間で育まれてきた心あたたまる交流を見つめます。



笹久一さんが仕事をしている青森県弘前市旧相馬村は、世界遺産である白神山地の山あいにあります。笹久一さんは、魚、野菜、惣菜、パンやお菓子に日用品まで移動販売車に積んで、旧相馬村の9つの集落を一人で回っています。

国が指定する特別豪雪地帯で、冬は2 mもの雪が積もり、10世帯のうち半数以上を一人暮らしの高齢者が占める、いわゆる限界集落です。電車もバスもスーパーもなく、冬場は、豪雪に覆われて買い物もままならない過疎の集落です。

そんな相馬村の人達の暮らしは笹久一さんの移動販売車が支えているんですね。雪かきをしないと、家がつぶれるほどの豪雪地帯なんですよね。暮らしていくことが本当に大変そうです。相馬村の人達にとって、笹久一さんの移動販売車は命綱でもあるんですね！

笹久一さんが移動販売車で外回りをしている間は、奥様が商店を切り盛りしているようです。笹久一さんは、親子二代に渡って移動販売を続けており、毎日、市場で新鮮な魚を買い付けています。鮮度と肥えを見極めて魚をえらび、自身でさばいて切り身にして販売しているそうです。

湯口、紙漉沢、五所、水木在家、坂市、藤沢、相馬、藍内、沢田の9つの集落には、およそ40人程度が住んでいて、お宅のそばを通ります。

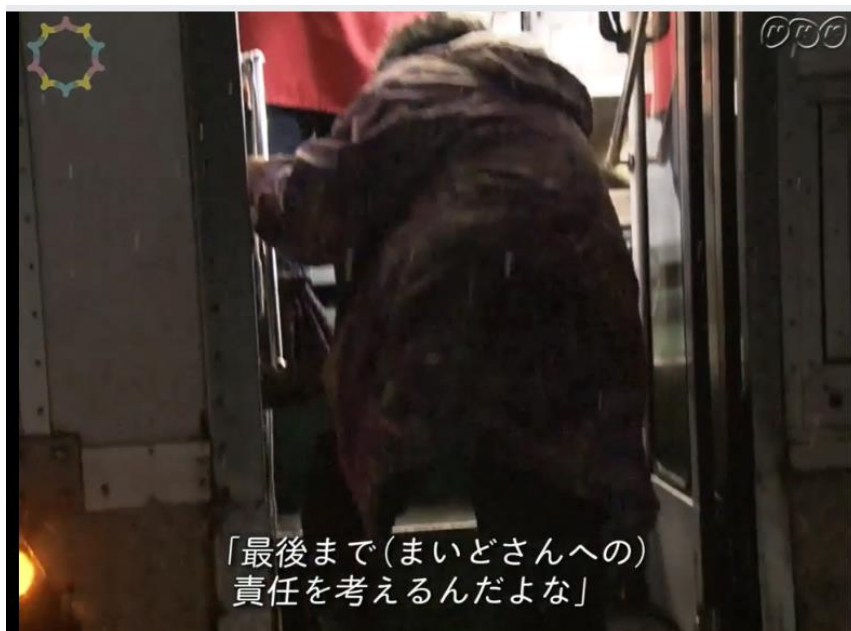
巡回してきた事を知らせるため、都はるみの歌謡曲を、スピーカーで流しています。



笹久一さんは、常連客が求めるものを知り尽くしていて、体調や生活を気遣うなど家族のようにきずなを深め、感謝を込めて常連客を「まいどさん」と呼ぶそうです。

「まいどさん」は、移動販売車の常連客のことだったんですね！

笹久一さんのあたたかい人柄が、呼び方に表れていてほっこりしますね^^



笹さんは、地域の高齢化と過疎化で儲けが減り、いつまで続けられるか不安を抱えていた。

「いつでもやめるにいらんだけど、けっきょく おぎゃくさんの顔が出てくるはんで」  
「最後まで自分でせきにん考えるんだよね」

「ほんとに感謝してける おぎゃくさんの顔が見れるのが、ほんとにいいはんで」



ある日、常連客のまいどさんが、笹さんに電話で、チョコレートを注文しました。

「バレンタインが来るでしょ？」

バレンタインの日に、施設にはいっているご主人にチョコレートをプレゼントしたいという。ただ、「一口ではいる小粒のチョコレートを」という注文だった。

後日、おばあちゃんが、チョコレートを持って、施設をおとずれる。

ご主人は、うれしそうに、一口大のチョコレートを味わう。一口大は、寝たきりのご主人を気遣ってのことだった。





“まいどさんたちの人生に寄り添っていきたい”

